

平成 28 年度事業報告書

施設・事業所名	銀 山 学 園
---------	---------

平成 28 年度の主たる重点推進事項

重点推進事項の① 計画相談・個別支援計画による個別支援の充実

ひとりひとりの特性・個性をアセスメントして、生きにくさをくみ取り、配慮すべきは何かを一人ひとり考え、共有していく。

【評価】平成 27 年度中盤から取り組んできた、法に触れる障がい者の支援をはじめ、関係機関と個別支援について、協議し、広く支援関係者が課題を共有してきた事例は多数。在宅での地域生活が困難になって利用される方も多い。支援困難事例についても、毎月のサポート会議で事例検討を積み上げ、全体で課題共有。夜間のこだわり行為を軽減できた事例もある。個別の課題に向き合ってきた成果ともいえる。

重点推進事項の② 嚥下機能低下への対応 ～調理設備の充実

食事提供のうち、調理段階に設備導入する。スチームコンベクションの導入
 食材を柔らかく、優しく調理し、美味しい食事提供につなげたい。
 また、ソフト食への対応についても、足がかりとしたい

【評価】導入にかかる入札執行。調理場確認の後、契約。取り扱い説明をうけ、活用にかかるコンサルテーションもうけながら、機器の有効活用について実際の調理を通じて、積み上げ継続。
 委託業者との月齢会議でも、検証継続、有効活用をお願いしている。

重点推進事項の③ 記録システムの更新

パソコンの環境更新に合わせて、現在の記録システムを機能向上させる。
 その際、それまで使用していた機材も活用し、記録以外の支援事務にも活用し、支援関係の事務的処理の渋滞を 軽減できるよう工夫したい。

【評価】各ユニット、各サブ管室、医務室のほか、支援員室にパソコン補充。支援関係の事務的処理や日常の記録の渋滞は改善されてきた。

施設・事業所の利用状況 銀 山 学 園

事業名	利用定員	年間利用延べ数	月平均利用実員	年間利用率
入所支援	110名	36,384名	107.8名	90.6%
生活介護	130名	32,407名	127.6名	92.7%
短期入所	7名	175名	1.9名	6.8%
	名	名	名	%

事業名 銀 山 学 園

利用者の年齢構成 (入 所 支 援)

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
女 性	0	0	4	11	6	19	8	1	49
男 性	0	1	6	8	8	34	2	1	60
計	0	1	10	19	14	53	10	2	109

障がい支援区分 (入 所 支 援)

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	その他	計
女 性	18	20	10	1					49
男 性	15	26	15	4					60
計	33	46	25	5	0	0	0	0	109

事業名 銀 山 学 園

利用者の年齢構成 (生 活 介 護)

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
女 性			4	11	6	19	8	1	48
男 性		6	11	20	9	35	2	1	83
計		6	15	31	15	54	10	2	131

障がい支援区分((生 活 介 護)

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	その他	計
女 性	17	20	10	1					48
男 性	27	37	14	5					83
計	44	57	24	6	0	0	0	0	131

□苦情の受付・解決の状況

苦情解決制度に基づき 報告が必要な事案数	社会福祉法に基づく苦情 0 件
上記の事案に対する 苦情解決の状況	
日常的な利用者からの 意見・要望等の聴取の 方法等	生活ユニット単位の利用者会議で聞き取り。(毎月開催) 自治会組織、ユニット連絡協議会の役員会や全体会でも聞き取りしている。 また、なんでも相談で要望等があれば 相談を受ける。
日常的な利用者からの 意見・要望等の概要	買い物希望の聞き取り、旅行や外出先の希望。食事についての要望。行事やクラブ活動参加の 希望など。対人関係での困りごとまれにあり、ユニット内で個別面談をしたり、居室替え や、ユニット間の移動で 対応することがある。

□職員の状態

※平成 29 年 3 月 31 日現在

職 員	施設長	サビ管	生活支	職業支	栄養士	看護師	世話人	事務員	その他
実 員	1	3	65		1	3		6	1
常勤換	0.1	1.3	60.3		1	2.3		5.1	1

□職員研修の実施状況

	回数	延べ参加数	主たる研修の内容
内部研修	34 回	339 人	<p>○外部講師による内部研修～1 回。 精神障害の対応を中心に、講演会。30 名。</p> <p>○新任職員対象としたフォローアップ研修 6 回 21 名</p> <p>○介護勉強会。スキンケア、薬の作用・副作用、感染予防、危険予知訓練に関する勉強会。12 回。延べ 136 名参加。</p> <p>○自閉症勉強会。15 回。延べ 152 名参加。</p>
外部研修	46 回	119 人	<p>○中小企業家同友会主催の新人職員研修 3 回 7 名。</p> <p>○道社協 スキルアップ関連研修 マナーや種別、レベル別の研修 10 回。21 名</p> <p>○ソーシャルワーカー協会研修 1 回 2 名。</p> <p>○強度行動障害関係研修(基礎・応用、その他)6 回。10 名。</p> <p>○サビ管研修 2 回 2 名。</p> <p>○介護予防関係研修 1 回。1 名。</p> <p>○法人役員研修 1 回 1 名。</p> <p>○全国自閉症研修 1 回 2 名。</p> <p>○キャリアパス等他法人との連携による研修 4 回 42 名。</p> <p>○道知的障害福祉協会関係、虐待防止等関係の研修 17 回。35 名。</p> <p>○防災。防犯関係 2 回 2 名。</p>

□コミュニケーション面談の実施状況

<p>実施月日 7月～8月</p>	<p>【評価】科長以上の管理職が一般職と個別に面談。業務上の困りごと、気づき、業務向上に向けての目標設定などについて面談。職場全体が抱えている課題を共有し、改善に向けていくとの趣旨で実施。日々の業務執行の中、日程調整には難儀をするところではありますが、今年度は一通り実施できた。一般職と個別面談した科長職以上の管理職と施設長が面談。施設長が総体的な問題課題を把握できた。</p> <p>全体把握後、係長含めた拡大運営会議に「面談内容から見えてくるもの」報告困りごと等は日々の業務執行の中でそれぞれの立場で相互に支えあう関係づくりが重要であること伝えた。日々のシフト勤務で、やり残した事柄をしっかり引き継ぐこと、受け継ぐ関係が大切であることを伝えた。やり残した事柄を個々人の業務評価としてとらえないことが重要。支援環境の困難さを共有していくことが重要であること伝えた。また、ストレスチェックやメンター制度、新人職員へのフォローアップ研修等を通じて、困りごとを抱えない職場環境にしていこうことが重要との認識にいたる。今後も継続。</p>
-----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

□職員会議の実施状況

<p>全体職員会議</p>	<p>毎月 2回</p>	<p>【評価】サポート会議。定例議題としては、利用者の入退院の状況や事故・ヒヤリハットの発生状況確認し、原因分析、再発防止策を共有。2回目の会議では研修伝達や事例のグループワークで支援課題を共有している。</p>
<p>虐待防止委員会</p>	<p>毎月 1回</p>	<p>【評価】改善計画により、月間のテーマを基に、権利擁護推進委員会として定例開催。不適切なかかわりなどが報告された場合は、虐待防止委員会として開催するが、今年度は該当事項なかった。</p>
<p>虐待防止セルフチェック</p>	<p>年間 4回</p>	<p>【評価】四半期ごとに実施。点検項目で、たまにあるや時々ある、場合の具体的記載をよびかけ、戸惑う場面をひろいあげ、共有できるようにしている。</p>
<p>リスクマネジメント委員会</p>	<p>毎月 1回</p>	<p>【評価】毎月開催。月々発生している、事故ヒヤリハットを確認。発生の傾向や背景、再発防止策を協議、確認し、この会議の経過を全体のサポート会議に報告している。</p>
<p>管理職員会議</p>	<p>毎月 1回</p>	<p>【評価】運営会議、係長会議、支援科長、部科長会議、定例で開催。拡大運営会議では、コミュニケーション面談の経過と結果を報告し、組織が抱えている課題を共有した。</p>

□施設整備・設備整備の状況

事業内容	事業概要
調理室、スチームコンベクション設置	○嚙下機能低下に対応するため、食材を優しく調理できるよう設備改善。28年4月、指名競争入札により、業者選定。落札した業者のスチームコンベクションを導入、設置。設備の使用手順、料理手順の実地指導を受けながら、よりおいしい食事提供に貢献していただくために設備改善を実施。1,700,000円
女性浴室、天井改修工事	○女性の浴室、天井パネルが一部歪んで危険な状況あり、28年11月改修工事見積もり。天井パネル解体、ダクトの交換の上、天井パネル更新工事実施。快適さと安全性を改善できた。天井改修 999,000円配管工事 290,520円
書庫(プレハブ)設置。 マイクロバス更新。	○書類の保管場所、建物内の倉庫に入り切れない状況があり、プレハブの物置を設置。377,001円 ○平成12年から運行してきたマイクロバス。28年10月に車種限定し、業者指名で見積もり合わせ。11月に割賦契約。29年4月納車。6,599,072円

平成 28 年度事業報告書

施設・事業所名	コタン
---------	-----

平成 28 年度の主たる重点推進事項	
重点推進事項の①	行動障がいのある方、自閉症の方などに特に効果的といわれる TEACCH プログラムを実践する。
【評価】 50 点	問題行動へのアプローチだけでなく、個々人の自立に焦点をあて一日のスケジュールの作成を目指して実践をしてきましたが、まだまだ十分と言える成果とは言えない。部分のスケジュール化は出来ているが、一日、週間、月間となるとまだ十分な結果と言えない。
重点推進事項の②	強度行動障害支援者養成で学んだ支援方法の実践と確立。
【評価】 60 点	支援の統一化のためにシートなどを統一化して、アセスメントや会議などを実施。とくにアセスメントは職員の個々人の力量に大きく左右されることが多いため、まだまだ支援の統一に関しては不十分と言える。また、職員のコミュニケーションもその要因の一つにあげられる。
重点推進事項の③	支援員が変わっても混乱しない支援方法の確立。
【評価】 70 点	P E C S の活用という点は、昨年度に比べて多くの利用者さんが取り入れてきている。しかしながら、より円滑なコミュニケーションの確立という点では、まだまだ向上の余地があり重点項目②と連動していることを考えると不十分な点は否めない。

施設・事業所の利用状況

事業名	利用定員	年間利用延べ数	月平均利用実員	年間利用率
コタン	23 名	24 名	6 5 5 名	95%
	名	名	名	%
	名	名	名	%
	名	名	名	%

□利用者に対する工賃支払の状況

作業種				
月の平均工賃	円	円	円	円

□苦情の受付・解決の状況

苦情解決制度に基づき 報告が必要な事案数	社会福祉法に基づく苦情 件
上記の事案に対する 苦情解決の状況	
日常的な利用者からの 意見・要望等の聴取の 方法等	
日常的な利用者からの 意見・要望等の概要	

□職員の状況

※平成 29 年 3 月 31 日現在

職 員	施設長	サビ管	生活支	職業支	栄養士	看護師	世話人	事務員	その他
実 員	1	1	16			1	6		
常勤換	0.1	0.7	11.6			0.1	6		

□職員研修の実施状況

	回数	延べ参加数	主たる研修の内容
内部研修	3回	22人	法人GHスタッフ研修 法人6・7年目職員研修 法人3年目職員研修
外部研修	24回	34人	梅永先生・志賀先生講演会 自閉症ワークショップセミナー 自閉症実践セミナー 函館侑愛会 50周年プレ研修会 4法人自閉症勉強会 発達障害講座 (start・standard・advance) ABA 応用行動分析研修 虐待防止研修 防火管理研修 感染症予防研修 防犯体制研修

□コミュニケーション面談の実施状況

実施月日 11月～12月	【評価】法人コミュニケーション面談 特に大きな問題もなく面談終了
実施月日 2月～ 3月	【評価】世話人コミュニケーション面談 一昨年に実施予定が、職員のみの実施に終わったため、今年度は世話人のみ実施。

□職員会議の実施状況

全体職員会議	毎月1回	【評価】全体で会議をもつことが難しいため、各棟の代表が出席し実施。毎月、運営のことを中心に協議。
虐待防止委員会	毎月1回	【評価】 銀山学園と同時に開催。 毎月の各棟の会議で報告。また定期的に啓発のため、各棟の会議で虐待防止マネジャーより研修報告を実施。
虐待防止セルフチェック	年間2回	【評価】 不適切な支援なども上がってくることはなかった。
リスクマネジメント委員会	毎月1回	【評価】 銀山学園と同時に開催。 各棟の会議等で報告。
管理職員会議	毎月3回	【評価】 銀山学園と同時に開催。(科長会議・部科長会議・運営会議) 会議報告は、各棟ごとの会議で報告。

□施設整備・設備整備の状況

事業内容	事業概要
水圧ポンプ修理	地下にある水圧ポンプが漏電により破損。保険で対応し修理実施。

平成 28 年度事業報告書

施設・事業所名	えんれいそう
---------	--------

平成 28 年度の主たる重点推進事項

重点推進事項の①

利用定員の確保（地域密着型通所介護・介護予防通所介護）

現在利用されている方たちに良質なサービスを提供することにより、新規利用者の開拓を図る。
また、サービス提供時間を1時間延長（15時終了を16時に）することによって利用されている方
・家族の欲求を充足し新規利用者に魅力のあるサービス提供時間にすることにより、新規利用者増を
図る。

【評価】

重点推進事項の②

趣味的活動のメニューの増及び日常動作訓練の実施

サービス提供時間を延長することにより、趣味的活動のメニューを増やし1日いて楽しい雰囲気作り
を図る。
ウォーキングや音楽に合わせた体操を1日の中の一定の時間内に取り入れることで運動量を確保する。

【評価】

重点推進事項の③

運営推進会議の開催（年2回）

地域の代表者、利用者、家族、市町村職員等を委員とし、提供しているサービス内容等を明らかにすると
ともにサービスの質の確保を図ることを目的に開催する。

【評価】

□苦情の受付・解決の状況

苦情解決制度に基づき 報告が必要な事案数	社会福祉法に基づく苦情 0件
上記の事案に対する 苦情解決の状況	
日常的な利用者からの 意見・要望等の聴取の 方法等	
日常的な利用者からの 意見・要望等の概要	

□職員の状況

※平成 29 年 3 月 31 日現在

職 員	センター長	管理者	生活相談員	看護師	介護職員	機能訓練指導員	調理員	事務員
実 員	1	1	1	2	3	2	1	
常勤換算	0.1	0.2	0.8	0.1	3	0.1	1	

□職員研修の実施状況

	回数	延べ参加数	主たる研修の内容
内部研修	2回	1人 6人	法人新任研修 法人職員研修
外部研修	7回	8人	感染症予防研修 後志デイサービスセンター協議会職員研修 仁木町運動教室ほか 救急救命講習会

□コミュニケーション面談の実施状況

実施月日 11月 21,22日	【評価】 法人コミュニケーション面談 事業所の運営、各自の職務に関する意見等の聞き取りができた。
実施月日 月～ 月	【評価】

□職員会議の実施状況

全体職員会議	毎月1回	【評価】 毎月1回実施。 勤務予定、行事予定、アセスメント等協議。
虐待防止委員会	毎月1回	【評価】 全体職員会議時に必要な都度開催。
虐待防止セルフ チェック	年間 回	【評価】
リスクマネジメ ント委員会	毎月1回	【評価】 全体職員会議時に必要な都度開催。
管理職員会議	毎月 回	【評価】 法人・银山学園開催の会議に参加。

□各種会議の実施状況

運営推進会議	年2回	【評価】 28年度から開催となった会議であったが、活動の報告、意見の聞き取りなどを行った。
仁木町関係会議	年3回	地域ケア会議、総合事業移行への事前打ち合わせなどに参加した。 第6期仁木町高齢者福祉計画策定委員会に参加した。

□施設整備・設備整備の状況

事業内容	事業概要

平成 28 年度事業報告書

施設・事業所名	陽だまり
---------	------

平成 28 年度の主たる重点推進事項

重点推進事項の ①楽しく・働く・通う場に

- ・利用者の高齢層と若年層との二分化が見られてきているため、それぞれ個々にあった作業内容を提供し、休まず 継続して通所していただけるよう、日々の励ましの支援を継続する。
- ・暮らしの場との連携、連絡をとり安定した授産作業を継続し通所機能の維持を図る。

【評価】

- ・利用者さんの体力、状況に合わせてその日の作業内容を検討し実施。ご本人に無理なく作業参加できるような作業の組み立てを行っている。
 - ・グループホーム事業所ふきのとうと連携し健康状態・生活状態等の情報を共有し安心して働く場として日中活動の提供を実施。

重点推進事項の ②作業工賃の増を目指し、計画的な効率的な作業内容に

- ・ホームページ利用でネット販売の継続。
- ・地元イベントへの即売参加
- ・コストの継続した見直し
- ・新規の販路拡大を目指す（ふるさと納税返礼品への参加等）

【評価】

- ・インターネットによる販売の継続実施。
- ・地元イベントに参加（さくらんぼフェス・うまいもんじゃ祭り）
- ・仁木町ふるさと納税返礼品に参加。200 件を超える注文があり売上向上につながった。
- ・新規の販路としてインターネットにて福祉製品を販売する新規企画に参加開始。

重点推進事項の ③健康管理と余暇支援の充実

- ・利用者の高齢化対策の一つとして、医療機関、医務室（銀山学園・大江学園）と連携し安心して利用できるよう継続して健康管理の充実を図る
- ・余暇支援、行事参加を選択し参加できるよう情報の提供を行い働く意欲、生活の意欲の向上を図る。

【評価】

- ・高齢化の影響で疾病が多くなり健康管理が重要となっており、定期的な通院にて対応を行っている。状態に変化があった場合は、銀山学園・大江学園の医務室と連携し状態確認をしていただき通院の指示を仰ぎ対応実施。
- ・朝、夕の全体の打合せにて一日の予定、行事、通院等の説明を行い情報に提供をわかりやすく行っている。

事業名 _____

利用者の年齢構成()

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
女 性									
男 性									
計									

障がい支援区分()

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	その他	計
女 性									
男 性									
計									

利用者に対する工賃支払の状況

作業種	ドライフラワー班	食品加工班	委託業務班	
月の平均工賃	円	円	円	円

★決算終了後に工賃額が決定します。

苦情の受付・解決の状況

苦情解決制度に基づき 報告が必要な事案数	社会福祉法に基づく苦情 0 件
上記の事案に対する 苦情解決の状況	
日常的な利用者からの 意見・要望等の聴取の 方法等	
日常的な利用者からの 意見・要望等の概要	

□職員の状態

※平成 29 年 3 月 31 日現在

職 員	施設長	サビ管	生活支	職業支	栄養士	看護師	世話人	事務員	その他
実 員	1	1	1	8				1	
常勤換	0.1	1	1	6.1				1	

□職員研修の実施状況

	回数	延べ参加数	主たる研修の内容
内部研修	4 回	10 人	6/14 法人幹部職員研修 1 名 6/15 法人科長研修 1 名 10/14 法人 3 年目研修 1 名 11/8 法人職員研修 7 名
外部研修	16 回	18 人	5/17 全道施設長セミナー 1 名 6/20 道知協知的障害関係職員支援員研修 1 名 6/23 全国的障害関係施設長等会議 1 名 6/30 就労センター施設長・職員研修 1 名 7/26 権利擁護セミナー 1 名 9/3 梅永・志賀先生講演会 1 名 9/23 就労センター職員研修 1 名 10/6 就労支援フォーラム 2 名 11/7 感染予防研修 1 名 11/18 後志福祉協会職員研修 1 名 1/18 道知協幹部職員研修 1 名 2/9 小樽市障害者職親会研修会 1 名 2/14 救命講習 2 名 2/23 発達障害・行動障害の基礎と応用 2 名 2/20 全道施設長研修 1 名 3/9 就労センター施設長・職員研修 1 名

□コミュニケーション面談の実施状況

実施月日 11月～12月	【評価】 事業所コミュニケーション面談は未実施 法人コミュニケーション面談全職員実施（11月～12月）
実施月日 月～月	【評価】

□職員会議の実施状況

全体職員会議	毎月 1回	【評価】 毎月1回 第3土曜日 陽だまり会議実施 (利用者さんと合わせ全体で会議実施。終了後職員会議実施)
虐待防止委員会	毎月 1回	【評価】 毎月1回 第3土曜日 陽だまり会議後実施
虐待防止セルフ チェック	年間 2回	【評価】 年2回実施 虐待防止セルフチェック 業務振り返りシート
リスクマネジメ ント委員会	毎月 1回	【評価】 毎月1回 第3土曜日 陽だまり会議にて 職員・利用者さんよりヒヤリハットを確認。
管理職員会議	毎月 1回	【評価】 随時開催

□施設整備・設備整備の状況

事業内容	事業概要

平成 28 年度事業報告書

施設・事業所名	ふきのとう
---------	-------

平成 28 年度の主たる重点推進事項

重点推進事項の ①GH 建物の老朽化に伴う具体的な中長期計画の作成

- ・一般住宅を改修し共同生活住居として活用している建物の老朽化が進み建て替え、改修、修繕等の具体的な計画の作成を行う。

【評価】

仁木地区会議にて仁木地区の中長期計画を 1 年間かけ協議実施。他事業所との調整も行い、GH の建替え整備を平成 29 年度に具体化し消防設備も含め進めていく方向性が出される。

重点推進事項の ②栄養バランスを考慮した食事提供の見直し・検討 及び生活環境の再編

- ・入居者の高齢化、疾病の増加、重篤化の中「食事提供」のあり方について具体的な検討を行う。
(栄養バランス、カロリー等)
- ・入居者の状態に合わせた生活環境の再編について検討を行う。

【評価】

- ・栄養管理、食材購入方法のあり方を再考し、同法人事業所のウイリング和光と配食サービスの委託業務契約を実施。(7 月より) 栄養士による献立を基に、食材の配送にて世話人が調理する方法へ変更。栄養バランス、食事量の統一が可能になった。
- ・入居者の高齢化、建物の老朽化を考慮し大江地区 GH たんぼぼを廃止し GH8 か所⇒7 か所に変更利用者さんの健康状態、生活形態に合わせご本人の同意のうえ再編を実施。

重点推進事項の ③高齢化に伴う健康管理の充実を図る

- ・利用者の高齢化に伴い、通院の増、疾病の重篤化が見られてきている現状があり、健康管理・通院対応、服薬支援も増加している為、関係事業所(銀山学園・大江学園医務室)と連携し適切な支援を実施する。

【評価】

- ・高齢化に伴い疾病の増と通院の増が今年度も顕著にみられた。その都度銀山学園、大江学園の医務室と連携し状態確認・処置をいただき通院の是非についても確認を実施。必要であれば速やかに通院対応を実施した。

事業名 _____

利用者の年齢構成()

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
女 性									
男 性									
計									

障がい支援区分()

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	その他	計
女 性									
男 性									
計									

利用者に対する工賃支払の状況

作業種				
月の平均工賃		円		円

苦情の受付・解決の状況

苦情解決制度に基づき 報告が必要な事案数	社会福祉法に基づく苦情 0 件
上記の事案に対する 苦情解決の状況	
日常的な利用者からの 意見・要望等の聴取の 方法等	
日常的な利用者からの 意見・要望等の概要	

職員の状況

※平成 29 年 3 月 31 日現在

職 員	施設長	サビ管	生活支	職業支	栄養士	看護師	世話人	事務員	その他
実 員	1	2	6			1	15		
常勤換	0.1	0.2	4.5			0.1	8.7		

□職員研修の実施状況

	回数	延べ参加数	主たる研修の内容
内部研修	6回	36人	6/14 法人幹部職員研修 1名 6/15 法人科長研修 1名 8/5 法人6～7年目研修 1名 9/27 理事評議員研修 1名 10/4 法人グループホームスタッフ研修 16名 11/8 法人職員研修 6名
外部研修	16回	21人	5/17 全道施設長セミナー 1名 6/23 全国施設長等会議 1名 6/13 GH食材配送事業視察研修(函館) 3名 7/26 権利擁護セミナー 2名 7/26 サービス管理責任者研修 1名 9/3 梅永・志賀先生講演会 1名 9/8 全国職員研修札幌大会 1名 10/19 相談支援従事者研修(サビ管) 1名 10/7 感染症予防研修 1名 11/16 北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修 1名 1/18 道知協幹部職員研修 1名 2/9 小樽市障害者職親会研修 1名 2/14 救命講習 2名 2/23 発達障害・行動障害の基礎と応用 2名 2/20 全道施設長研修 1名 3/9 就労センター施設長・職員研修 1名

□コミュニケーション面談の実施状況

実施月日 11月～12月	【評価】 事業所のコミュニケーション面談未実施。 法人のコミュニケーション面談全職員対象で実施。
実施月日 月～月	【評価】

□職員会議の実施状況

全体職員会議	毎月 1回	【評価】 毎月最終水曜日 事業所職員（世話人含む）にて会議実施。
虐待防止委員会	毎月 1回	【評価】 毎月最終水曜日 事業所の会議終了後、虐待防止委員会実施。
虐待防止セルフ チェック	年2回	【評価】 年2回 セルフチェック実施。
リスクマネジメント委員会	毎月 1回	【評価】 毎月最終水曜日 事業所職員（世話人含む）にて会議実施。
管理職員会議	毎月 1回	【評価】 随時開催

□施設整備・設備整備の状況

事業内容	事業概要

施設・事業所名

大江学園

平成 28 年度の主たる重点推進事項

重点推進事項の①

○施設整備計画の作成

- ・「建替か」か「修繕」かの結論を出す。
- ・補助団体の情報収集をする。

【評価】

- ・設計業者に見積り依頼し建替か、修繕かについて検討した。
 - ・本体建替えの工事費 約 12 億円・増築と内部構造の変更による改修工事 約 6 億円
 - ・現状の大規模修繕 約 3 億円
- ・居住棟の建替の場合建設費の捻出、既存建物との連動に課題があり、利用者支援にも影響がでる可能性が残る。
- ・結論 = 大規模修繕の方向で検討することが望ましい。(大江学園運営会議において)
- ・大規模修繕着工時期 平成 33 年 (前回の大規模修繕平成 12 年・21 年目の修繕となる)
- ・予算規模 3 億円～4 億円程度
- ・補助団体の情報収集の結果
 - ・車両競技公益記念財団 トイレ・浴室の改修限定
 - ・日本自転車振興会 屋上防水・外壁補修限定
 - ・国庫補助 近年、優先順位の高い防犯対策やスプリンクラー整備の件数が多く、大規模修繕は国に協議すら出来ていない状況。(後志振興局)

重点推進事項の②

○社会貢献事業と利用者支援の充実

- ・地域貢献事業の整理と充実
- ・利用者支援の充実

【評価】

- ・地域の各種行事の事務局業務をはじめ、しょうぶの丘を活用した地域高齢者の生活支援、陶芸館の一般開放、相談支援事業など広く地域貢献活動をしていることを確認した。
- ・新たな取り組みとして囲碁の得意な利用者さんが中心になり毎週 1 回囲碁サロンを開催し地域の囲碁ファンに喜ばれている。
- ・3 月に地域の協力者参加の元模擬スナックを開催し大変好評を得た。
- ・特に高齢者の生きがい作り活動に力をいれ、その実践内容を全道の職員研修会においてサービス管理責任者が発表し評価された。

重点推進事項の③

○働きやすい職場環境づくり

- ・職員間のコミュニケーションづくり
- ・やる気の出る職場づくり
- ・福祉の専門性を高める

【評価】

- ・施設長とのコミュニケーション面談を一人1回から2回実施した。
- ・各ユニット単位での自主的な職員交流会を数回実施した。
- ・職員のやる気をはかるため予算化しグループ単位の意見交換会を5回実施した。
- ・新任職員育成研修15回、内部研修5回、外部研修への派遣26名 実施した。

施設・事業所の利用状況

事業名	利用定員	年間利用延べ数	月平均利用実員	年間利用率
施設入所支援	40名	13,886名	38.0名	95.0%
生活介護	60名	11,137名	41.4名	69.0%
短期入所	4名	15名	1.1名	%
	名	名	名	%

事業名 施設入所支援

利用者の年齢構成()

※平成29年3月31日現在

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
女性			2		4	5	6	5	19
男性				2	1	7	5	4	22
計			2	2	5	12	11	9	41

障がい支援区分()

※平成29年3月31日現在

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	その他	計
女性	16	5		1					19
男性	10	5	1	3					22
計	26	10	1	4					41

事業名 生活介護

利用者の年齢構成()

※平成29年3月31日現在

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
女性				2	5	5	6	5	23
男性			2		2	11	5	4	24
計			2	2	7	16	11	9	47

障がい支援区分()

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	その他	計
女 性	16	4	1	1	1				23
男 性	10	5	3	6					24
計	26	9	4	7	1				47

事業名 短期入所

利用者の年齢構成()

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
女 性					1				1
男 性					1				1
計									2

障がい支援区分()

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	その他	計
女 性			1						1
男 性			1						1
計									2

利用者に対する工賃支払の状況

作業種				
月の平均工賃	円	円	円	円

苦情の受付・解決の状況

苦情解決制度に基づき 報告が必要な事案数	社会福祉法に基づく苦情 件
上記の事案に対する 苦情解決の状況	
日常的な利用者からの 意見・要望等の聴取の 方法等	
日常的な利用者からの 意見・要望等の概要	

□職員の状況

※平成 29 年 3 月 31 日現在

職 員	施設長	サビ管	生活支	職業支	栄養士	看護師	世話人	事務員	その他
実 員	1	1	30		1	3		3	
常勤換	0.9	1.0	28.65		1.0	2.0		3.0	

□職員研修の実施状況

	回数	延べ参加数	主たる研修の内容
内部研修	5 回	55 人	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護研修（10月・11月・12月） ・手洗い、うがい・嘔吐物処理研修 ・交換研修報告 ・施設長講話 <p>上記以外に毎月職員ガイドブックの読み合わせ実施</p>
外部研修	26 回	28 人	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害研修 ・権利擁護研修 ・虐待防止研修 ・スキルアップ研修（新任・中堅） ・感染管理研修 ・加齢化支援研修 ・幹部職員研修 ・アールブリュット、ネットワーク研修 ・サビ管研修 ・抑制廃止研究会 ・メンタルヘルス講習 等

□コミュニケーション面談の実施状況

実施月日 月～ 月	【評価】
実施月日 月～ 月	【評価】

□職員会議の実施状況

全体職員会議	毎月1回	【評価】毎月、第3木曜日の午後開催 サービス会議（利用者さんも参加）、ケース会議、内部研修、他
生活支援科会議	毎月1回	毎月、第3木曜日 利用者支援に関すること他
虐待防止委員会	毎月1回	【評価】毎月、運営会議後に開催 4月 セルフチェックの実施について 5月 チェックリストの集計 6月 体制整備チェックリストの確認 虐待防止に関する質問票について 7月 体制整備チェックリストについて 28年度障がい者虐待防止・権利擁護研修参加者について 8月 津久井やまゆり園の事件を受けて研修の持ち方を検討 虐待防止に関する研修会出席者の確認 研修会出席後の内部研修の持ち方 9月 5分で出来る職場のストレスチェック取り組みについて 10月 安心と笑顔体制確認リスト（法人案）について 11月 28年度北海道障がい者虐待防止。権利擁護研修会参加について 12月 安心と笑顔があふれる支援のための手引について 1月 権利擁護研修会参加報告 2月 全施連への虐待相談事例 3月 29年計画について
虐待防止セルフチェック	年間 回	【評価】 4月・10月に実施、翌月の職員全体会議において検証した。
リスクマネジメント委員会	毎月1回	【評価】 毎月、第3木曜日 午前に開催 事故報告・ひやりはっと報告の原因分析と対策の協議 法人リスクマネジメント委員会の報告
管理職員会議	毎月1回	【評価】毎月 第1木曜に開催。 月間予定(会議、行事、研修等)の確認。組織運営状況把握と調整。 利用者支援状況把握と検証、修正。ほか

□施設整備・設備整備の状況

事業内容	事業概要

平成 28 年度事業報告書

施設・事業所名 障がい者相談支援センターにき

平成 28 年度の主たる重点推進事項

重点推進事項の①

ご本人、ご家族と向き合い、一人ひとりに寄り添いながら関係機関等との連携により生活を支えていける相談支援
障がい児から全ての障がい児・者（特定疾病含む）の特定相談を実施。実施地域（後志 5 か町村）等の障がいを持つすべての方、ご家族のサポートを行い、意思決定支援、権利擁護の意識を踏まえ、障がい福祉サービス等を安心して利用していただき、地域で生活できるお手伝いをいたします。
相談支援体制整備による特定事業所加算の取得及び一般相談支援事業への切替。

【評価】

相談支援 3 人体制にて今年度実施。特定相談支援者数 239 名。基本相談に係る連絡を受け、ご本人、ご家族等の相談支援を行うことができた。実施地域：仁木町、余市町、小樽市、喜茂別町
児童相談等の件数も微数ながら相談が増加しており、福祉サービス事業所の他、教育機関等と連携を図った。

重点推進事項の②

専門性の向上と人材育成として、専門研修などへ積極的に出向くことでスキル向上を目的に取組んでいく。

障がいを持たれている方の特性が多様化し、必要なニーズや支援を受け止められる専門的相談機関として、事業所職員の専門性、スキルの向上を図ります。

1. 研修会への積極的参加（現任研修参加による業務の振返り）
2. 実践成果を踏まえた地域の実態調査などによる支援状況の把握
3. 他法人、他事業所を含めた情報収集と連携
4. 危機・事故防止管理の徹底（計画の複写利用などの禁止）

【評価】

相談支援専門員（現任）研修 1 名参加。現任研修による相談支援の振返りを実施。

SST 研修 2 名参加。研修参加については、前年と比較し減少。次年度、専門分野にとらわれず、必要と感じる研修に参加し、スキルの向上を更に向上できるような取組が必要。

重点推進事項の③

福祉コミュニティ形成の実践として、各団体、協議会などに参加すると共に各関係機関等と連携を図る為、研修企画等を行いながら、相談支援センターの広報的取組を行っていく。

市町村、障害福祉サービス事業者等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善、開発に努めるものとしませす。一般相談、特定事業所加算対応の申請、取組など。

1. 北後志自立支援協議会、後志地域相談支援連絡協議会への参加
2. 北後志地域における地域福祉の向上の為、地域関係機関相互における連携の強化、情報の共有
3. 出前相談

【評価】

今年度、特定事業所加算を受け事業展開を実施。報酬単価の微増を図った。

ワンストップ相談窓口に関して、平成 28 年 10 月より行政等関係機関と話し合いを重ねながら町のコミュニティ形成の一端に取り組むことができ、今後、継続して行く必要がある。出前相談、研修企画等については、未実施。

事業名 _____

利用者の年齢構成()

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
女 性									
男 性									
計									

障がい支援区分()

※平成 29 年 3 月 31 日現在

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	その他	計
女 性									
男 性									
計									

利用者に対する工賃支払の状況

作業種				
月の平均工賃	円	円	円	円

苦情の受付・解決の状況

苦情解決制度に基づき 報告が必要な事案数	社会福祉法に基づく苦情 0 件
上記の事案に対する 苦情解決の状況	
日常的な利用者からの 意見・要望等の聴取の 方法等	
日常的な利用者からの 意見・要望等の概要	

職員の状況

※平成 29 年 3 月 31 日現在

職 員	施設長	管理者	相談支	職業支	栄養士	看護師	世話人	事務員	その他
実 員		1	3						
常勤換			3.0						

□職員研修の実施状況

	回数	延べ参加数	主たる研修の内容
内部研修	10回	79人	かたるべの森施設見学 法人 幹部職員、科長職研修会 夕張市 らぶらす施設見学 自閉症勉強会 北後志母子通園センター母親教室 当別町ゆうゆう視察 3回 法人全体研修
外部研修	22回	27人	京極町社協訪問。事業所見学、ワンオール訪問 梅永、志賀先生研修会、自立支援協議会（地域学習会） 障がい者雇用について（訪問ヒアリング） 精神保健福祉講座 町づくりセミナー 発達支援学習会 相談支援専門員（現任）研修 福祉 100 人会議 in おたる 小樽市障がい者職親研修会 等

□コミュニケーション面談の実施状況

実施月日 月～ 月	【評価】 事業所職員 3 名である為、計画的なコミュニケーション面談を図らなかったが、経験値のある職員 の集まりである為、各々の思いが共有されていない状況が見受けられた。
実施月日 月～ 月	【評価】

□職員会議の実施状況

全体職員会議	毎月 1 回	【評価】 障がい者相談支援センターにき 事業所会議定例開催実施。予定、計画予定数等の核 に事項になり、事業計画、運営、ケース検討について、別途開催が必要。
虐待防止委員会	毎月 回	【評価】
虐待防止セルフ チェック	年間 回	【評価】
リスクマネジメ ント委員会	毎月 回	【評価】
管理職員会議	毎月 回	【評価】

□施設整備・設備整備の状況

事業内容	事業概要